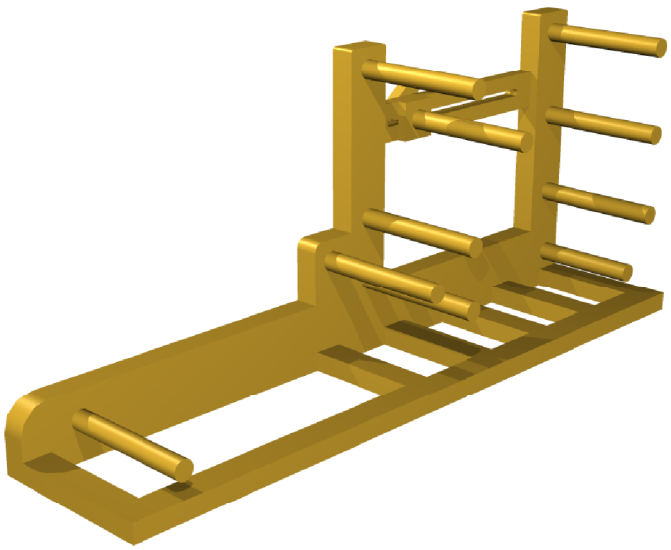
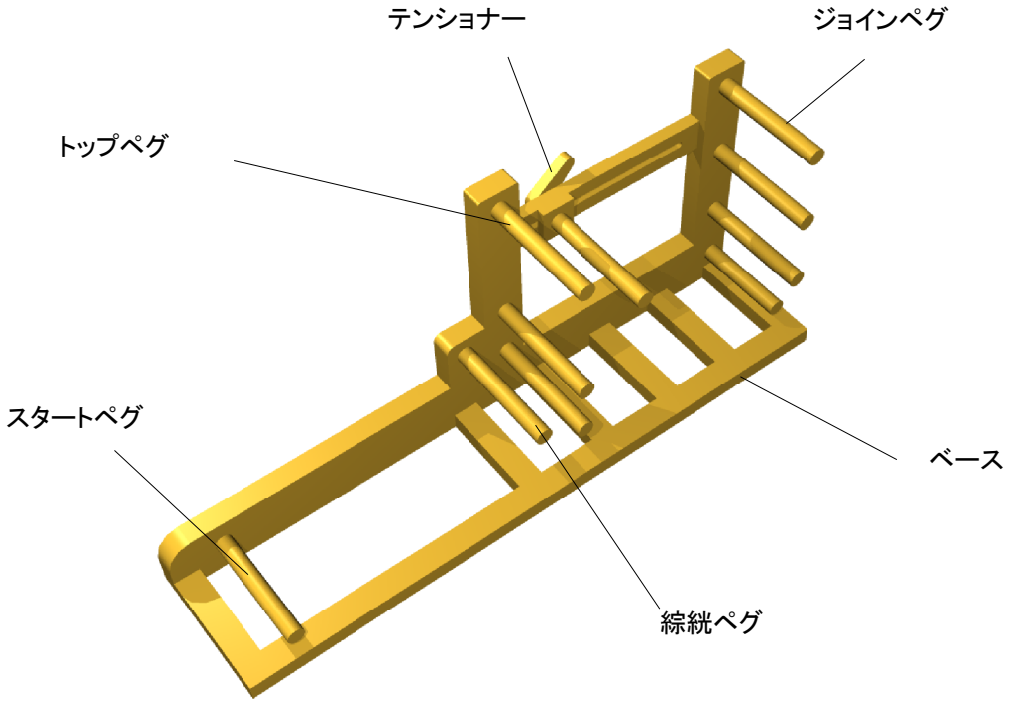
# インクルルーム

# 取扱説明書



注：基本的な取扱いの解説となります。
　　個々の織り方については、パターンブック等を参照下さい。

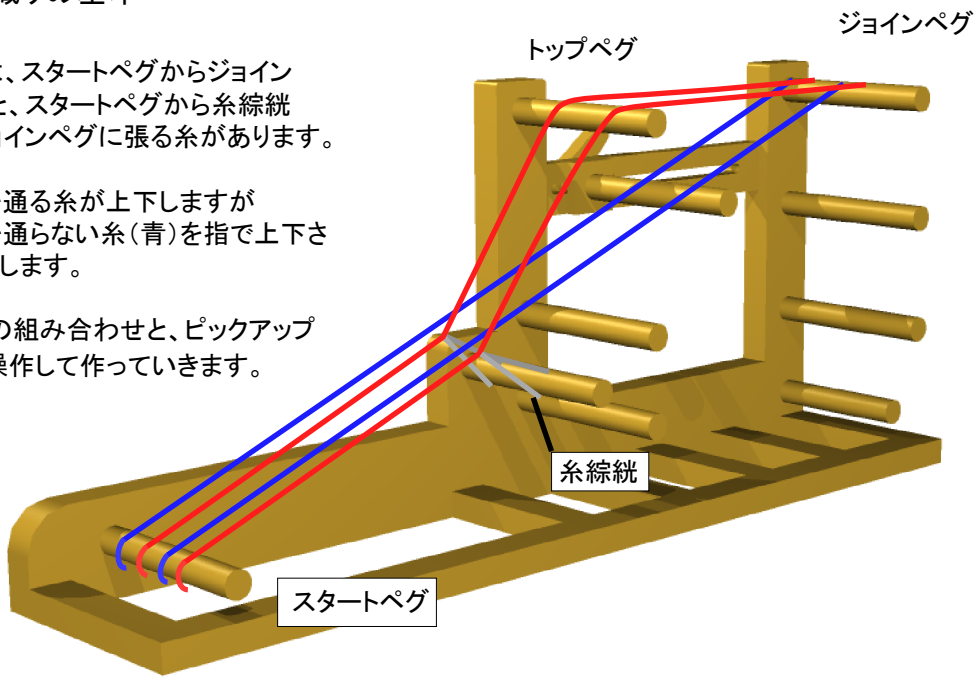
## 1. 各部の名称




## 2. インクルルームの織りの基本

インクルルームの経糸は、スタートペグからジョインペグに張る糸（青で表示）と、スタートペグから糸綜絖を通りトップペグ経由でジョインペグに張る糸があります。（赤で表示）
通常の織り機では綜絖を通る糸が上下しますがインクルルームでは綜絖を通らない糸（青）を指で上下させて開口を作り、板杼を通します。

パターンは、経糸、横糸の組み合わせと、ピックアップスティックで上糸、下糸を操作して作っていきます。

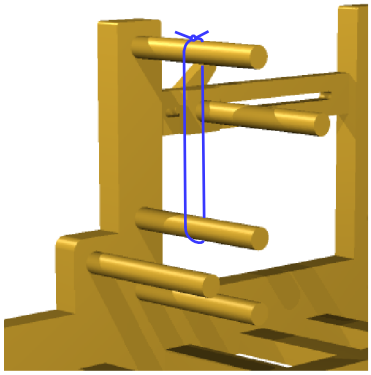



## 3. 付属品

| | | |
|---|---|---|
| 1. | 板杼 | １本 |
| 2. | ピックアップスティック | ２本 |

## 4. 糸綜絖の準備

糸綜絖はトップペグと下のペグを利用し、右図のような輪にします。
同じ長さになるよう、張り具合を確認ながら必要な本数を準備します。

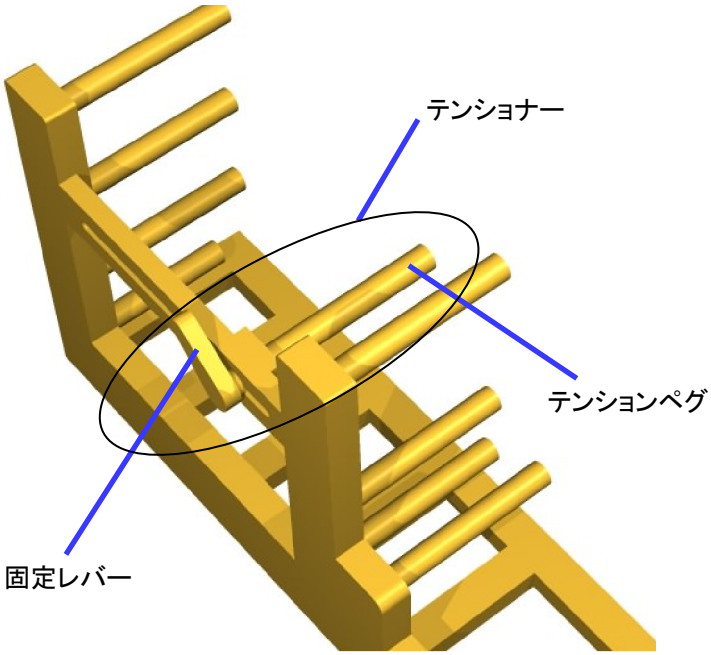


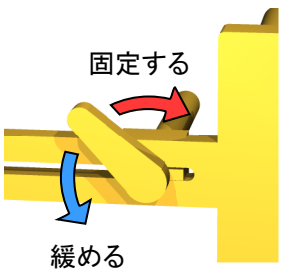
## 5. 糸の張り（テンション）の調整方法

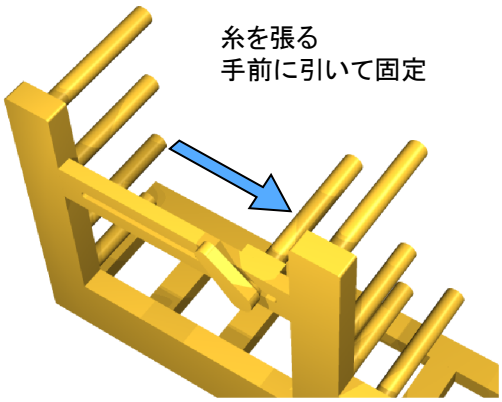
糸を張りを調整する場合は、テンショナーを使用します。
先ず、テンションペグの端を右手で支え、左手で固定レバーを支えながら反時計回りに回します。
テンショナーが緩み移動できるようになります。

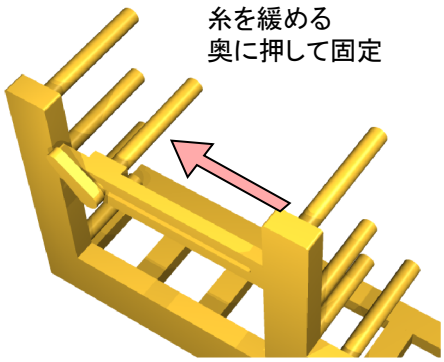
テンションペグが平行に移動するよう、右手で支えながらテンショナーの位置を調整します。

位置が決まったら、固定レバーを時計回りに回し、テンショナーを固定します。
軽く締めればテンショナーは固定されるのであまり力を入れてレバーを回す必要はありません。

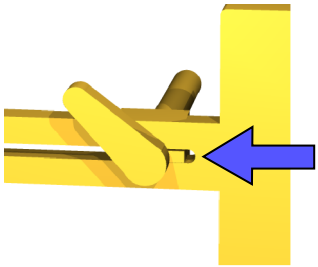


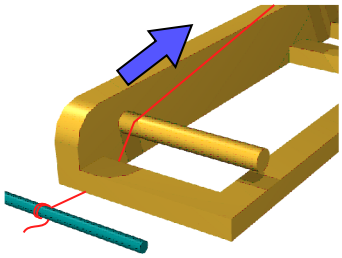



## 6. 経糸を張る



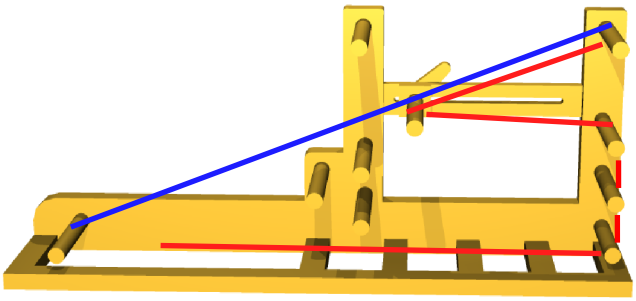
① 織り始めのテンションを掛けるため、テンショナーを
一番手前から3cmくらい前の位置に固定します。



② 経糸の最初は、スタートペグから張り始めます。
糸が外れないよう、ペンなどに糸を巻いて
ベースの下を通します。

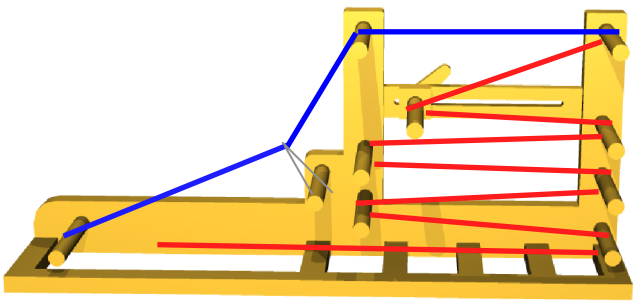
③ 糸綜絖を通らない場合は、スタートペグ
から真っ直ぐジョインペグへ糸を張ります。
ジョインペグからテンションペグを通り
ジョインペグの下のペグに張ります。

ここからは、作品の長さによりペグ
を選びながら糸を張っていきます。
（右の絵は、一番短い場合）



糸綜絖を通らない

④ 糸綜絖を通る場合は、糸綜絖を
通してトップペグ経由でジョインペグに
糸を張ります。
（右の絵は、一番長い場合。
織れる長さは約2．5mです。）

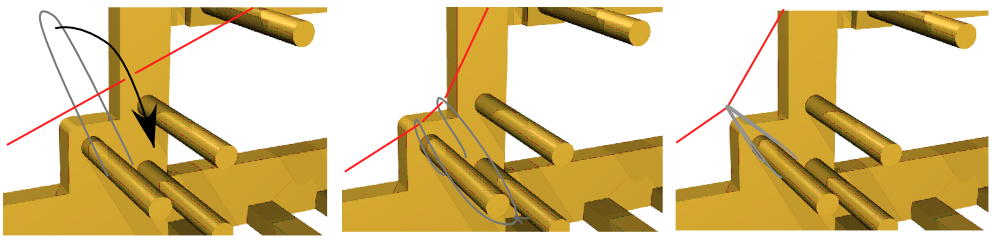


糸綜絖を通る

張り方は整経と同じで、片方の手でペグに
糸を押さえつけ動かないようにして、次の
巻きに進みます。巻き進んだところで、また
手で押さえ、次の巻きを行います。

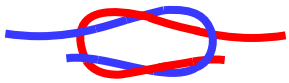
【糸綜絖のかけ方】

最初に綜絖ペグに糸綜絖の輪を通し、経糸を引き下げながら綜絖ペグに引っかけます。
糸綜絖の結び目は、織りの邪魔にならないよう、ペグの後ろになるように位置を調整します。
2本取りの糸の場合は、同じ要領で糸綜絖にもう一度通します。



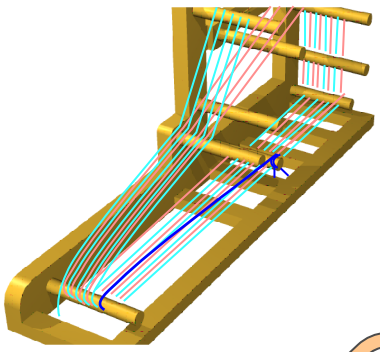
⑤　パターン図に従い、③、④を繰り返し張りを続けます。

張り方は、1本の糸を繋いでいく方法と、一巻き毎に輪にする方法があります。
糸を繋いでいく場合は、右図の様に糸を結びます。



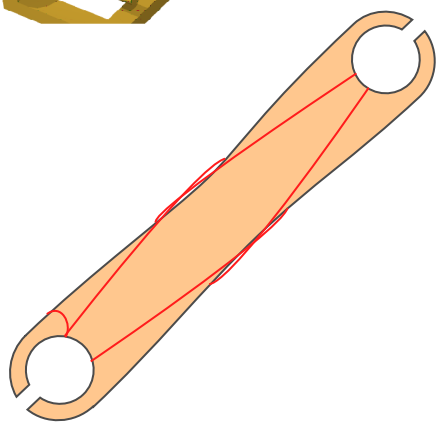
⑥ 最後の処理もいろいろやり方がありますが、
右図の青い糸のように、途中のペグにとりあえず
巻いて止めておくのも一つの方法です。

その際、最後の糸のテンションが前に巻いた
糸と変わらないよう注意します。



## 7. 板杼に横糸を巻く

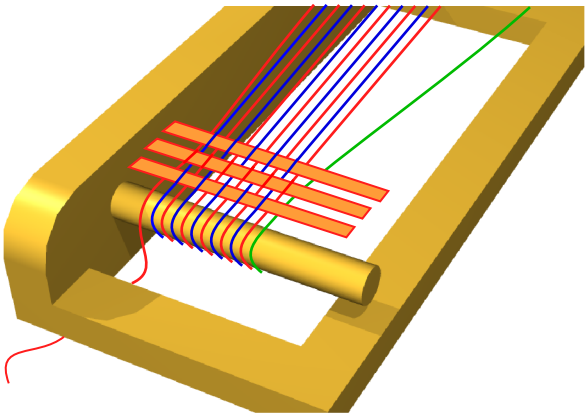
インクルルームの場合は、返しで糸を外し、
連続で操作するということはあまり重要ではないので
右図のような巻き方をします。



あまり巻きすぎると開口部を通しにくくなりますので
厚みに注意します。

## 8. 織り始める

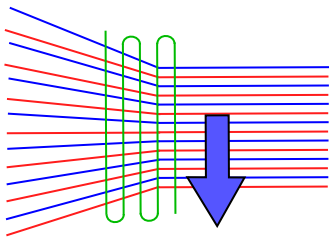
織り始めは、何段か平織りをするか、右図の
ように木の薄い板をかませて織り始めると安定
しやすいようです。



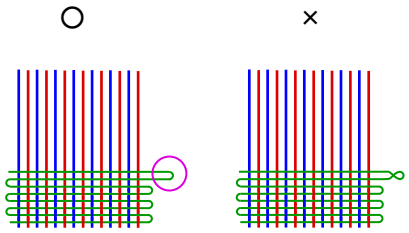
巻き始めの糸、最後の糸は少し織ってテープが
安定するまでそのままにしておきます。

最初の平織りの時にしっかりしたテープ
になるよう横糸を引っ張りなら、横幅を
調整します。

テープがよれない程度にきっちり詰めると綺麗に
編み上がります。

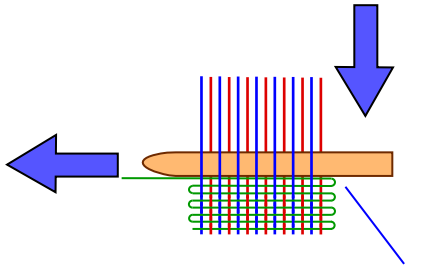


## 9. 織り方のワンポイント

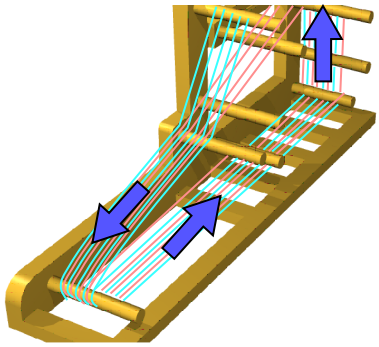



(1) 板杼で通した横糸を引くときに糸がよれて
いると耳が綺麗にそろいません。
横糸を引いてくるときに、右図の紫の部分を
親指と人差し指でつまみながら糸を左に引き
ます。

(2) ピックアップスティックは、テーバーがついて、
細くなっている側で、経糸に垂直に打ち込みます。
スティックで軽く横糸を押さえながら、左に
(ピックアップスティックに添わせ))、やはり経糸に
垂直に、テープの幅が一定になるよう力を調整
しながら引いていきます。




(3) 織り進むと、織った部分の経糸にウェーブがかかる
ので張りが強くなります。
張りが強いままで織ると糸が打ち込みづらくなり
パターンが縦に間延びしてきます。
張りが強くなったと感じたら、5 のテンションの調整
にしたがい経糸を緩めます。
また、横糸を通す場所が糸綜絖に近くなると
開口しにくくなり、やはりパターンが間延びするように
なります。
テンションを緩め、糸を手前に引くようにずらし
織り始めの位置に戻します。
糸綜絖が糸に引きずられて手前にずれてきますので
位置を調整します。



(4) パターン作成のユーティリティーとして、パソコンのエクセル用の
ソフト、「インクルの友」があり、ホームページからダウンロードできます。
http://www.ne.jp/asahi/magical/pocket/downld/index.htm

## 10. 織り終わり

織り始めがジョインペグを過ぎ、開口できなくなったら織り終わりです。
最後の始末は、針を使ってテープ本体にからげるか、細い紙テープを
織り込んで、テープの輪に糸を通し織り込みます。
織れなかった糸の部分をハサミで切って完成です。